(9)菜豆優良品種候補「十育B-50号」について

十勝農業試験場　豆類第2科

1.はじめに

現在、菜豆の金時類の品種としては「大正金時」および「北海金時」が主に作付けされている。このうち、「大正金時」は、早生で輪作体系上秋播小麦の前作物になり得る[1)]優点があり作付が多い。しかし、道産豆類にたいする実需者側の要望としては良質品嗜好が強く、「大正金時」の子実が小さいことがしばしば問題とされる。一方、「北海金時」は大粒であるが、成熟期がやや遅く、不良気象年では秋播小麦の前作物とならない[2)]ため作付は伸びていない。

2.育成経過

早生で大粒、多収の金時品種を開発するため、昭和48年に「十育B-30号」[3)]を母、「大正金時(多節)」[4)]を父として人工交配を行い、雑種世代から選抜した系統を、生産力検定試験[5)]、特性検定試験[6)]、奨励品種決定調査[7)]に供試し、育成したものである。

3.特性の概要

成熟期が「大正金時」よりユ日程度遅い早生種であり、秋播小麦の前作に適する。子実収量は「大正金時」よりやや優り、「北海金時」より少ない。子実の形は「北海金時」と同じ長楕円体であり、色は「大正金時」に比べやや濃く、大きさは「大正金時」よりも20%近く大きい。また、外観上の晶質は「大正金時」「北海金時」にやや優る。煮熟時の肉質は「大正金時」よりやや粉質であるが、煮豆、甘納豆の加工適性は「大正金時」「北海金時」と同様に高い。インゲン炭そ病8)に対しては抵抗性を有する。

4.普及態度

早生で秋播小麦の前作物に適し、子実が大粒で収量性が「大正金時」よりやや優ることから、十勝、網走、上川支庁管内の「大正金時」の一部におきかえて普及することにより金時類の多収化と晶質の向上をはかりたい。

表1.十育B-50号の育成地における特性概要

形質＼品種名	早晩性	成熟期(月日)	収量(kg/a)	同比(%)	百粒重(g)	同比(%)	子実の形	品　質	耐倒伏性	炭そ病抵抗性		
										C1菌株	C2菌株	C13菌株
十勝-B50号	早	9.7	22.1	107	84.0	119	長楕円体	2下	中	強	強	強
大正金時	早	9.6	20.7	100	70.5	100	楕円体	3中	中	強	強	強
北海金時	早の晩	9.9	23.8	115	80.1	114	長楕円体	3上	中	強	強	弱

表2.十育B-50号の奨励品種決定現地調査成績(農家ほ場)

地域名	品種名	成熟期(月日)	子実重(kg/a)	同比(%)	百粒重(g)	同比(%)	品質
十勝	十育B-50号	9.6	23.2	105	75.4	116	3中
	大正金時	9.5	22.1	100	65.1	100	3下
	北海金時	9.10	25.9	117	75.6	116	3下
網走	十育B-50号	9.5	28.4	105	76.6	118	2下
	大正金時	9.4	27.0	100	64.9	100	3上
	北海金時	9.11	29.8	110	76.6	118	2下
上川	十育B-50号	8.29	27.1	110	76.9	118	2下
	大正金時	8.28	24.6	100	65.0	100	3中
	北海金時	9.1	28.2	115	75.4	116	3中

1)秋播小麦の播種適期は、上川地方では9月上旬前半、十勝、網走地方では9月中旬である。

2)低温年には、成熟期が遅延し易く「北海金時」では秋播小麦の適期までに成熟期に達しないことが多い。

3)十勝農試における金時類育成系統:(紅金時×大正金時)F10×(大正金時×前川金時)F9

4)「大正金時」より発見、保存した多節型突然変異で通常の主茎節数が6節に対し約12節である。

5)生産力検定試験(収量、成熟期、粒大などを既存の品種と比較し選抜の参考にする)は、55年から6か年実施。

6)特性検定試験(播種時期、栽植密度、施肥量等に対する反応、耐冷性、耐病性などの検定を行い、特性を明らかにする)は56年から5か年実施。

7)奨励品種決定調査は、試験機関で57～60年に4か年実施し、委託農家では58～60年に、十勝7、網走6、上川2、計15か所で実施。

8)種子伝染性のカビ病で病原性の分化がみられ、従来は手亡類だけに被害が見られたが、近年は金時類でも発病している。

目次へ戻る